

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274200662		
法人名	株式会社富士見プロジェクト		
事業所名	グループホーム小芝の家 (1階、2階)		
所在地	静岡市清水区小芝町2-13		
自己評価作成日	平成24年1月18日	評価結果市町村受理日	平成24年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2274200662&SC](http://aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2274200662&SC)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年3月4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

土地柄も良く、地域の一員として、地域行事にも声を掛けていただき、参加しています。また、ホーム内では季節事の催しも充実しており、利用者の笑顔が多く見られます。生活面では、利用者が必要なものは買い物と一緒に付け、気分転換にもなり、家族の負担も軽減出来ています。利用者のご自分のペースで生活し、出来る限り要望にも応えていると思っています。医療面でも、安心できる体制を整えています。職員との関係も家族のように関わり、より良い関係作りを築いているため、利用者からの要求や意見も聞きだせ、生活がしやすくなっていると感じます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

もともと商店の多かった小芝地区は人と人のふれあいが豊かな地域であり、日々の小さな親切とともに時には大いなるサプライズもある。今月も「ひな祭りだからね、皆さんでどうぞ」と、近隣の菓子店から雛あられが届けられている。地区主催のコンサートには利用者と職員の席を用意してくれ、場内での移動も地域の皆さんが手伝ってくれたという。東日本大震災を受け、地区会長が根回しに動いてくれたり、近隣の高い建物の所有者からは「避難場所として使ってください」との温かな言葉ももらっている。書面確認や聞きとりから、職員の自発性を促す仕組みや責任感を培う取り決めが要所に働いていることが充分視認され、地域との関係の高さもこのような丁寧な取り組みの成果なのであろうことが見える。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念と、ホーム内の理念、ユニットごとの理念を決め、その理念に基づき実践している	1階に比べ2階は自立の利用者が多いこともあり、暮らしの意向がやや異なるため、事業所の理念のほかユニット毎の理念を設けている。したがって、ユニット理念は利用者の心身状態や人間関係の変化によって柔軟に替えることになるという。現場に即して自らつくった理念のため、職員は自然に呼応している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも入っており、地域の方と顔なじみになって、行事にも参加し交流している	昨年に引き続き、高校生のボランティア訪問が毎週ある。本年は初めて事業所の祭りに取り組んでいる。地域への回覧板や事業所の玄関前にポスターを貼るなどしたが、遠慮があったのか参加者は多くはなかった。普段お世話になっている地域の皆さんにも喜んでもらえる祭りにすべく、来年への改善案もすでに検討されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を作り、ホーム内での様子、行事を載せ、回覧板に入れてもらい、中の様子を知っていただき、地域行事に参加し、理解を得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催はしているも、参加御家族も少ないため、今後はもっと参加していただける話し合いの場を作っていく	家族のほかにも、介護保険課、包括、清水消防署、駅前交番、近隣の商店、民生委員にも開催案内を出して、多方面から参加者を募っている。同法人の他の事業所の管理者の参加もあり、防災訓練や個別ケアの方法について共有化できるなどの成果も得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者が事業所に出向いてもらう機会を作れていないため、今後の課題である	運営推進会議の案内は「FAXでよい」と言われていて、毎回発信している。また、会議には市にも参加してもらいたいと考えているため、平日の昼間開催している。このように事業所としてできることには取り組んでいるが、参加は叶っていない。	会議の参加以外でも事業所の運営状況を知ってもらえるよう、運営推進会議の議事録を届けることを期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を作り、身体拘束をしないケアを理解し、3ヶ月にわたり研修を行った。講習会への参加もするようにしている。また、居室には施錠が設置されていない。玄関は日中常に開いている	2名の身体拘束排除の委員が中心となり、所内研修会を繰り返すことで「何が身体拘束になるのか」といった知識の標準化が図られている。「待って」などのスピーチロックが気になる場合もあるが、会議の中での話し合いで省みる機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士が気付き合い、虐待を見過ごさないように注意を払いあっている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を今以上に増やし活用していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、契約時に口頭と文章を照らし合わせながら説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見、要望を受入れるようにしている。毎月1回必ずお手紙を書き、御家族からの意見も気軽に話していただけるようにしている。また、他の相談窓口があることを契約時に説明している	利用者の心身状態やケアサービスの状況だけでなく、職員の異動や研修への参加報告など、事業所から家族へのホウレンソウを密にしている。家族も率直に意見を事業所に言ってきてくれる。例えば、玄関入口に写真と名前を取りつけてあるのは、「職員の顔と名前が一致しない」との家族の要望からである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者に週1回、報告をする場があり、介護支援専門員、管理者、職員の意見、提案を話している。管理者は職員と定期的に面談をしている	管理者は職員との話し合いの時間を大切に考えており、3ヶ月に1度の個人面談をおこなっている。年間の目標設定のケアフォローや愚痴タイムも兼ねていて、職員の成長支援とともに浄化作用(ガス抜き)の機会にもなっている。「係を決める」ということもここでの職員意見から実現していて、職員の責任感の醸成に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員が働きやすい環境を提供してくれている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修報告等も必ず行い、一人一人の力にあった研修の参加をし、外部、内部の研修をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者と情報交換したり、姉妹ホームの職員同士交流を図り、サービスの質を向上させるようにしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人が現在過ごされている所へ訪問したり、本人にホームへ来ていただき、要望等聞き、関係作りしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時、ホーム内の見学時、契約時に御家族の今現在の不安や、今後の要望を聞き、関係作りをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、御家族の必要としている支援を見極め、状況に応じた対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者との関係作りを常に考えるように指示し、共に生活をする同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、御家族に日頃の様子を伝えると共の、毎月1回必ず手紙を出し状況報告して、利用者を支えていく関係を作っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族、親戚、友人、近所の方、どなたでも気軽に訪問してもらい、職員とも顔なじみになり、気軽に話をしている。また、かかりつけ医も継続して、関係を築いている	玄関ドアは常に開けてあり、外からの訪問者をオープンに受け入れている。初めての訪問者には管理者から挨拶をするようにして、居心地よく過ごせてもらえるよう配慮している。毎食ブルーベリージャムをのせたヨーグルトを食するという習慣を続けている利用者や在宅時の趣味を続けている人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を日々の生活の中で把握して、席の移動をしたり、職員が間に入り、関わりがもてるように支援している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、御家族、他のホームの方と連絡をとり、関係作りしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、入居後、サービス計画見直し時等、利用者の希望を聞き、状況を把握し、支援するように努めている	アセスメントはプランの作成時に作りなおして、より現状に近いものを共有化している。要望についてはすぐに応えることを徹底していて、例えば「〇〇がない(買いたい)」と言われたら、その日のうち買い物に出掛けているという。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族訪問時や、親しい方が来ると、生活歴を聞いたり、利用者との会話の中から、情報得て、これまでの暮らしの把握をするようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調面、精神面を把握して、生活の中に苦痛がない様にしている。意見が出た際はすぐに実行するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、モニタリングを定期的にし、ケースカンファを毎月行い、介護計画を作成している	担当者がモニタリングシートにまとめた内容に基づいて、カンファレンスで職員全員で話し合っている。利用者本人から確認がとりにくい場合は、家族からも意見をもらっている。サービス内容はケアマネージャーがつくるが、具体的な援助内容は担当職員がつくっていて、プランと実践が連動できていることを視認した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等はすべて、介護記録に記入し、毎朝、職員が前日の記録を見る時間を作り、情報を共有し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、職員、利用者、御家族と相談して、サービス内容を変更し、柔軟な支援に取り組んでいる		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して、安全に豊かな生活が出来るように、一人一人の意見を聞き、その方にあったように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、御家族の希望に沿って、かかりつけ医の診察を受けるようにしている	在宅時からのかかりつけ医、事業所の協力医のどちらも職員が受診支援している。医療情報は個人ファイルに一括され、一目で把握できるよう整理されており、情報の共有とともに緊急時のすみやかな対応にも役立つものとなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が健康状態を確認し、1週間の出来事を報告している。また、緊急時は対応の指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関には、入院時職員も御家族と一緒に同行し、日頃の様子報告し、情報提供している。また、入院中も連絡を取り合い、状況把握している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期について説明して、重度化になる前に医療機関へ行くように支援している	契約時にできること、できないことの説明を家族にはしているが、「最期までここで」と熱望する家族が多いため、医療行為が必要なければ事業所でもできる限りおこないたいと考えている。協力医も24時間対応で看護師の訪問も週1回という環境の下、現在も1名の利用者の看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルを職員全員に渡し、事故発生時の対応が出来るようにしている。また、内部研修をし、勉強をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練をし、避難出来るよう訓練している。夜間訓練も行い、地域の方にもその様子を見ていただいたが、今後は回数をもっと多くし、参加者も増やしていきたい	夜間における訓練では、近所の皆さんに見守りをお願いし協力を得られる点を見出してもらったり、帰宅した職員の動きから反省点も上がるなど、具体的な成果を得ている。また消防署による消火訓練は全職員が参加していて、救命救急法への全員参加も今月に予定している。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの仕方、行動等を今以上、職員全員が意識を持ち行っていきたい	パットを居室からトイレにもっていく場合には周りの人に何を持っているのかわからないように配慮するなど、場面毎におけるプライバシー保護に取り組んでいる。また、呼び方は「～さん」で統一している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように声掛け、利用者の思い、希望に沿った生活が出来るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体調に応じて、その日の過ごし方を決め、常に状況を把握して、生活出来るように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい、身だしなみをし、衣類も本人の希望があれば、その希望にそって支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者の間に入り、食事中会話をしたりして、過ごしている。また、通常メニュー以外の物を用意して、楽しみを作っている	法人本部で栄養士がメニューを策定し、食材が毎日届いている。肉が何切れとか塩分が何グラムというようになっていて、健康管理に留意した取り組みであることが見える。普段の食事でも職員手作りの味を楽しめているが、好きなものを選べる外食やホットプレートを使った参画型メニューが利用者には好評だという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を立て、食事量、水分量を記録し、状況に応じて把握して対応をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをして、清潔保持を保ち、状況に応じて、歯科受診している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、状況に応じて、使用する下着を換え、自立にむけた支援を心掛けている	「できるだけトイレで」「(家族のために)コスト面も考慮し」「その人が気持ちが良い方法で」を方針として、決して職員が楽な方法を選ばないように指導している。リハバン係が記録をとり、またその係を3ヶ月毎に交替することで、責任もった取り組みと客観的な視点をもつことにも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を確認して、水分量や食事形態を考え、日々の生活の中で予防出来る事に取り組む、主治医へ相談、看護師への相談をして、利用者に応じた対策をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴曜日を決めているが、希望に応じて入浴できる。今、現在は利用者の皆様、それに沿ってくれており、入浴日を楽しまれている	毎日湯をはって希望があれば入浴することができるが、目安としては週3回としている。マンツーマン介助でゆっくりと落ち着いた時間が過ごせるようにして、利用者も職員との会話を楽しんでいる。湯はかけ流して、足拭きも毎回替え、快適性や清潔保持にも配慮している。入浴剤も3種類から選ぶことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に応じて、横になったり、居心地の良い場所にて、気持ちよく生活している。夜間も睡眠パターンを把握して、対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は介護記録のファイルに挟み、どの薬がどんな作用があるか、把握し、理解するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のやりたいことを聞いたり、楽しそうにする姿を観察して、本人が生活の中で、楽しいと思えることを行い、喜び、楽しみのある生活を送る支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候等を考えながら、外に出れる支援をしている。隣がお菓子屋のため、おやつを買いに行ったりも出来ている	気候がよければ散歩にでている。散歩コースがいくつかあるが、高齢化も進み近頃のコースを選ぶことが増えている。思い立ってのドライブにも出掛けていて、およそ月1回程度はおこなっている。時には、職員が勤務外のボランティアで外出支援を手伝ってくれることもある。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族の要望で高額は事務所で預かり、出かける際、お金が足りない時、事務所に取りに来て、買い物へも出掛ける		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あれば、その都度、対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く開放的な雰囲気、日が当たる箇所にはソファを置き、居心地良く、休む姿も見られる。	玄関には生花を置くようにして、ステンドグラスも華やかさに色を添えている。1階には雑段飾りがあり、また利用者が行事をテーマに作成したアクティビティを壁に掲示したり、シーズン毎に絵画を掛けかえていて、季節を楽しむ習慣が定着している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席を決めることにより、共有空間で、自分の場所を確保して、思い思いに過ごしたり、ソファに座って談笑されたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベット、戸棚、チェストがあるため、使用していた物を持ち込むことはあまり見られず。普段使用する、湯のみは使用していた物を持ち込んでいる	馴染みのものを持ち込んでいる人、そうでない人、人それぞれで好みの居室づくりが成されている。2階では趣味をもつ人もいて自室での時間を大切にしている傾向がある一方で、1階では共用空間が自分の部屋のような暮らし方をしている人が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者がホーム内で、出来ること、出来ないことをしっかり観察、把握して、自立した生活が送れるようにしているが、建物内部に不備があるため、注意が必要		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念と、ホーム内の理念、ユニットごとの理念を決め、その理念に基づき実践している	1階に比べ2階は自立の利用者が多いこともあり、暮らしの意向がやや異なるため、事業所の理念のほかにもユニット毎の理念を設けている。したがって、ユニット理念は利用者の心身状態や人間関係の変化によって柔軟に替えることになるという。現場に即して自らつくった理念のため、職員は自然に呼応している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも入っており、地域の方と顔なじみになって、行事にも参加し交流している	昨年に引き続き、高校生のボランティア訪問が毎週ある。本年は初めて事業所の祭りに取り組んでいる。地域への回覧板や事業所の玄関前にポスターを貼るなどしたが、遠慮があったのか参加者は多くはなかった。普段お世話になっている地域の皆さんにも喜んでもらえる祭りにすべく、来年への改善案もすでに検討されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を作り、ホーム内での様子、行事を載せ、回覧板に入れてもらい、中の様子を知っていただき、地域行事に参加し、理解を得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催はしているも、参加御家族も少ないため、今後はもっと参加していただける話し合いの場を作っていく	家族のほかにも、介護保険課、包括、清水消防署、駅前交番、近隣の商店、民生委員にも開催案内を出していて、多方面から参加者を募っている。同法人の他の事業所の管理者の参加もあり、防災訓練や個別ケアの方法について共有化できるなどの成果も得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者が事業所に出向いてもらう機会を作れていないため、今後の課題である	運営推進会議の案内は「FAXでよい」と言われていて、毎回発信している。また、会議には市にも参加してもらいたいと考えているため、平日の昼間開催している。このように事業所としてできることには取り組んでいるが、参加は叶っていない。	会議の参加以外でも事業所の運営状況を知ってもらえるよう、運営推進会議の議事録を届けることを期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を作り、身体拘束をしないケアを理解し、3ヶ月にわたり研修を行った。講習会への参加もするようにしている。また、居室には施錠が設置されていない。玄関は日中常に開いている	2名の身体拘束排除の委員が中心となり、所内研修会を繰り返すことで「何が身体拘束になるのか」といった知識の標準化が図られている。「待って」などのスピーチロックが気になる場合もあるが、会議の中での話し合いで省みる機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士が気付き合い、虐待を見過ごさないように注意を払いあっている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を今以上に増やし活用していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、契約時に口頭と文章を照らし合わせながら説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見、要望を受入れるようにしている。毎月1回必ずお手紙を書き、御家族からの意見も気軽に話していただけるようにしている。また、他の相談窓口があることを契約時に説明している	利用者の心身状態やケアサービスの状況だけでなく、職員の異動や研修への参加報告など、事業所から家族へのホウレンソウを密にしている。家族も率直に意見を事業所に言ってきてくれる。例えば、玄関入口に写真と名前を取りつけてあるのは、「職員の顔と名前が一致しない」との家族の要望からである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者に週1回、報告をする場があり、介護支援専門員、管理者、職員の意見、提案を話している。管理者は職員と定期的に面談をしている	管理者は職員との話し合いの時間を大切に考えており、3ヶ月に1度の個人面談をおこなっている。年間の目標設定のケアフォローや愚痴タイムも兼ねていて、職員の成長支援とともに浄化作用(ガス抜き)の機会にもなっている。「係を決める」ということもここでの職員意見から実現していて、職員の責任感の醸成に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員が働きやすい環境を提供してくれている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修報告等も必ず行い、一人一人の力にあった研修の参加をし、外部、内部の研修をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者と情報交換したり、姉妹ホームの職員同士交流を図り、サービスの質を向上させるようにしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人が現在過ごされている所へ訪問したり、本人にホームへ来ていただき、要望等聞き、関係作りしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時、ホーム内の見学時、契約時に御家族の今現在の不安や、今後の要望を聞き、関係作りをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、御家族の必要としている支援を見極め、状況に応じた対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者との関係作りを常に考えるように指示し、共に生活をする同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、御家族に日頃の様子を伝えると共の、毎月1回必ず手紙を出し状況報告して、利用者を支えていく関係を作っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族、親戚、友人、近所の方、どなたでも気軽に訪問してもらい、職員とも顔なじみになり、気軽に話をしている。また、かかりつけ医も継続して、関係を築いている	玄関ドアは常に開けてあり、外からの訪問者をオープンに受け入れている。初めての訪問者には管理者から挨拶をするようにして、居心地よく過ごせてもらえるよう配慮している。毎食ブルーベリージャムをのせたヨーグルトを食するという習慣を続けている利用者や在宅時の趣味を続けている人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を日々の生活の中で把握して、席の移動をしたり、職員が間に入り、関わりがもてるように支援している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、御家族、他のホームの方と連絡をとり、関係作りしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、入居後、サービス計画見直し時等、利用者の希望を聞き、状況を把握し、支援するように努めている	アセスメントはプランの作成時に作りなおして、より現状に近いものを共有化している。要望についてはすぐに応えることを徹底していて、例えば「〇〇がない(買いたい)」と言われたら、その日のうち買い物に出掛けているという。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族訪問時や、親しい方が来ると、生活歴を聞いたり、利用者との会話の中から、情報得て、これまでの暮らしの把握をするようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調面、精神面を把握して、生活の中に苦痛がない様にしている。意見が出た際はすぐに実行するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、モニタリングを定期的にし、ケースカンファを毎月行い、介護計画を作成している	担当者がモニタリングシートにまとめた内容に基づいて、カンファレンスで職員全員で話し合っている。利用者本人から確認がとりにくい場合は、家族からも意見をもらっている。サービス内容はケアマネージャーがつくるが、具体的な援助内容は担当職員がつくっていて、プランと実践が連動できていることを視認した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等はすべて、介護記録に記入し、毎朝、職員が前日の記録を見る時間を作り、情報を共有し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、職員、利用者、御家族と相談して、サービス内容を変更し、柔軟な支援に取り組んでいる		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して、安全に豊かな生活が出来るように、一人一人の意見を聞き、その方にあったように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、御家族の希望に沿って、かかりつけ医の診察を受けるようにしている	在宅時からのかかりつけ医、事業所の協力医のどちらも職員が受診支援している。医療情報は個人ファイルに一括され、一目で把握できるよう整理されており、情報の共有とともに緊急時のすみやかな対応にも役立つものとなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が健康状態を確認し、1週間の出来事を報告している。また、緊急時は対応の指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関には、入院時職員も御家族と一緒に同行し、日頃の様子報告し、情報提供している。また、入院中も連絡を取り合い、状況把握している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期について説明して、重度化になる前に医療機関へ行くように支援している	契約時にできること、できないことの説明を家族にはしているが、「最期までここで」と熱望する家族が多いため、医療行為が必要なければ事業所でもできる限りおこないたいと考えている。協力医も24時間対応で看護師の訪問も週1回という環境の下、現在も1名の利用者の看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルを職員全員に渡し、事故発生時の対応が出来るようにしている。また、内部研修をし、勉強をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練をし、避難出来るよう訓練している。夜間訓練も行い、地域の方にもその様子を見ていただいたが、今後は回数をもっと多くし、参加者も増やしていきたい	夜間における訓練では、近所の皆さんに見守りをお願いし協力を得られる点を見出してもらったり、帰宅した職員の動きから反省点も上がるなど、具体的な成果を得ている。また消防署による消火訓練は全職員が参加していて、救命救急法への全員参加も今月に予定している。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの仕方、行動等を今以上、職員全員が意識を持ち行っていきたい	パットを居室からトイレにもっていく場合には周りの人に何を持っているのかわからないように配慮するなど、場面毎におけるプライバシー保護に取り組んでいる。また、呼び方は「～さん」で統一している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように声掛け、利用者の思い、希望に沿った生活が出来るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体調に応じて、その日の過ごし方を決め、常に状況を把握して、生活出来るように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい、身だしなみをし、衣類も本人の希望があれば、その希望にそって支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者の間に入り、食事中会話をしたりして、過ごしている。また、通常メニュー以外の物を用意して、楽しみを作っている	法人本部で栄養士がメニューを策定し、食材が毎日届いている。肉が何切れとか塩分が何グラムというようになっていて、健康管理に留意した取り組みであることが見える。普段の食事でも職員手作りの味を楽しめているが、好きなものを選べる外食やホットプレートを使った参画型メニューが利用者には好評だという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を立て、食事量、水分量を記録し、状況に応じて把握して対応をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをして、清潔保持を保ち、状況に応じて、歯科受診している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、状況に応じて、使用する下着を換え、自立にむけた支援を心掛けている	「できるだけトイレで」「(家族のために)コスト面も考慮し」「その人が気持ちが良い方法で」を方針として、決して職員が楽な方法を選ばないように指導している。リハバン係が記録をとり、またその係を3ヶ月毎に交替することで、責任もった取り組みと客観的な視点をもつことにも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を確認して、水分量や食事形態を考え、日々の生活の中で予防出来る事に取り組む、主治医へ相談、看護師への相談をして、利用者に応じた対策をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴曜日を決めているが、希望に応じて入浴できる。今、現在は利用者の皆様、それに沿ってくれており、入浴日を楽しまれている	毎日湯をはって希望があれば入浴することができるが、目安としては週3回としている。マンツーマン介助でゆっくりと落ち着いた時間が過ごせるようにして、利用者も職員との会話を楽しんでいる。湯はかけ流しで、足拭きも毎回替え、快適性や清潔保持にも配慮している。入浴剤も3種類から選ぶことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に応じて、横になったり、居心地の良い場所にて、気持ちよく生活している。夜間も睡眠パターンを把握して、対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は介護記録のファイルに挟み、どの薬がどんな作用があるか、把握し、理解するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のやりたいことを聞いたり、楽しそうにする姿を観察して、本人が生活の中で、楽しいと思えることを行い、喜び、楽しみのある生活を送る支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候等を考えながら、外に出れる支援をしている。隣がお菓子屋のため、おやつを買いに行ったりも出来ている	気候がよければ散歩にでている。散歩コースがいくつかあるが、高齢化も進み近頃のコースを選ぶことが増えている。思い立ってのドライブにも出掛けていて、およそ月1回程度はおこなっている。時には、職員が勤務外のボランティアで外出支援を手伝ってくれることもある。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族の要望で高額は事務所で預かり、出かける際、お金が足りない時、事務所に取りに来て、買い物へも出掛ける		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あれば、その都度、対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く開放的な雰囲気、日が当たる箇所にはソファを置き、居心地良く、休む姿も見られる。	玄関には生花を置くようにして、ステンドグラスも華やかさに色を添えている。1階には雑段飾りがあり、また利用者が行事をテーマに作成したアクティビティを壁に掲示したり、シーズン毎に絵画を掛けかえていて、季節を楽しむ習慣が定着している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席を決めることにより、共有空間で、自分の場所を確保して、思い思いに過ごしたり、ソファに座って談笑されたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベット、戸棚、チェストがあるため、使用していた物を持ち込むことはあまり見られず。普段使用する、湯のみは使用していた物を持ち込んでいる	馴染みのものを持ち込んでいる人、そうでない人、人それぞれで好みの居室づくりが成されている。2階では趣味をもつ人もいて自室での時間を大切にしている傾向がある一方で、1階では共用空間が自分の部屋のような暮らし方をしている人が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者がホーム内で、出来ること、出来ないことをしっかり観察、把握して、自立した生活が送れるようにしているが、建物内部に不備があるため、注意が必要		